

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

## 事業名

## 学びのステップアップ事業

## 事業の経過・背景・課題

令和元年度から3ヵ年、小学校3年生への学力調査を実施し、授業改善を行った結果、学力の向上が見られた。令和5年度からは経年で学力の伸びを見るとともに、定着の弱い学習内容について、児童や保護者と確認し、調査結果と連携した教材に取り組むことで、個別最適な学びを実現する。

## 取組内容

交付実績額： 957 千円

- ・市立小学校2・3年生の全児童を対象に市独自の学力調査「宇治市統一学力調査（学びのステップアップ）」（国語・算数）を実施
- ・言語能力や認識力が高まる低学年に実施することで、早期に学習でのつまずきを確認し、授業改善を行うなど、学力向上につなげる
- ・結果個票をもとに、児童・保護者が未定着課題を確認し、学校・家庭学習で個々の結果を連携させたAIドリル等に取り組む

## 【実施スケジュール】

令和6年11月14日（木）：教職員向け事前説明会において実施目的・内容等を確認

12月2日（月）～6日（金）：調査実施

令和7年 2月上旬：児童・保護者へ個人票返却

伸びと弱点の確認、新学年に向けた目標設定

2月7日（金）：教職員向け事後説明会において、結果の見方や活用について確認し、各校での授業改善等に活用  
※結果をAIドリルと連携し活用



## 事業の成果・今後の展望等

言語能力や認識力が高まる低学年に学習でのつまずきなどの課題を確認し、授業改善を行うといった、有効な手立てを早い段階から継続的に講じることができた。

また、調査結果をAIドリルと連携して活用し、積み残しを解消するために、個に応じた課題に取り組ませることができた。

日常の学習記録データと併せて分析を行い、個別の指導や授業改善を行うとともに、個別最適な学習課題に取り組むことで、確かな学力をはぐくむことができると考える。

## 問い合わせ先

宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

# 宇治市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

## 事業名

## 宇治学デジタル化事業

### 事業の経過・背景・課題

宇治市では、「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」という考え方にに基づき、「総合的な学習の時間」を活用した「宇治学」を小学３年生から中学３年生まで実施している。

平成30年度に小学３年・６年用から副読本の発行を始め、令和元年には小学３年用から９年（中３）用までの副読本を発行し、３年または４年ごとに改訂を行っている。

令和２年度に一人一台タブレット端末の整備済み、タブレット端末で活用できるよう副読本のデジタル化を協議・検討してきた。

### 取組内容

交付実績額： 435 千円

・宇治市で独自に作成・発行している「宇治学」副読本を改訂に併せてデジタル化し、タブレット端末で活用できるようにすることで、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現し、児童生徒の宇治学での探究的な学びをより深いものにする

### 【実施スケジュール】

令和５年度：小学６年・７年(中１)用副読本を改訂に併せてデジタル化。令和６年度より活用。

令和６年度：小学３年・８年(中２)用副読本を改訂に併せてデジタル化。令和７年度より活用。

令和７年度：小学４年・９年(中３)用副読本を改訂に併せてデジタル化。令和８年度より活用。

令和８年度：小学５年用副読本を改訂に併せてデジタル化。令和９年度より活用。

※４年間で、改訂に併せて全学年デジタル化



### 事業の成果・今後の展望等

デジタル化した副読本の活用により、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながり、児童生徒の宇治学での探究的な学びがより深いものとなると考える。

令和５年度は小学６年・７年(中１)用副読本を、令和６年度は３年・８年（中２）用副読本を改訂に併せてデジタル化し、タブレット端末で活用できるようにした。引き続き改訂に併せて各学年の副読本をデジタル化し、活用していく。

### 問い合わせ先

宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

## 事業名

## 安心子育て支援事業

## 事業の経過・背景・課題

令和３年９月、医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）が施行され、宇治市でも医療的ケアが必要な幼児児童生徒及びその家族への支援が必要となっている。

医療的ケア児及びその家族が、個々の医療的ケア児の心身の状況等に応じた適切な支援を受けられるようにすること、学校看護師の安定した確保・雇用が課題である。

## 取組内容

交付実績額： 2,131 千円

- ・福祉部局と連携し、医療的ケア児受入れに係る仕組みの構築、支援に係る程度区分認定制度の構築、公立保育所・幼稚園、小・中学校での受入れ体制を確保し、学校看護師を配置
- ・医療的ケアの範囲や学校看護師配置の変更、令和７年度の受入れの検討のため、市医療的ケア検討会議を開催
- ・受け入れ校・園等の関係者が、制度や取組内容について理解を深め、共有を図るため研修の実施

## 【実施スケジュール】

令和６年４月：該当校へ８名の学校看護師配置

※別途宿泊学習夜間対応のため派遣看護師を民間委託

令和７年１月：受け入れ校・園等の関係者 京都府主催医療的ケア児支援者養成研修への参加

３月：第１回医療的ケア検討会議開催

令和７年度受入れについて検討

（医療的ケア実施の可否、認定基準に基づく区分認定等について）



▶学校看護師オリエンテーション

## 事業の成果・今後の展望等

令和７年度についても、令和６年度同様に、該当校に学校看護師を配置し、医療的ケア児への必要な医療行為を行うことにより、医療的ケア児の健やかな成長を図るとともに保護者が安心した子育てや就労が行える環境を確保していく。

## 問い合わせ先

宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

## 事業名

## アイススケートチャレンジ事業

## 事業の経過・背景・課題

全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の結果では、全国と同様に宇治市の小・中学生の体力は低下傾向にある。

市内にある府内唯一の通年型スケート場を活用し、アイススケート体験をととして幅広くスポーツに触れられる機会を創出し、スポーツへの興味関心をもたせるとともに、生涯スポーツにつながる運動習慣の定着を図る。

## 取組内容

交付実績額： 1,314 千円

○「木下アカデミー京都アイスアリーナ」と連携して、府内唯一の通年型スケート場を活用し、市内小学生への多様な運動経験の機会を確保

- ・宇治市立小学校第4学年に在籍する全児童を対象とし、約2時間のアイススケート体験を実施
- ・児童がスムーズに当日の体験ができるようにするため、講師派遣による事前学習を実施するとともに、トップ選手の練習見学会を実施



## 事業の成果・今後の展望等

体験実施前や実施後にも保護者とスケート場を訪れるケースがあり、当日の体験だけに終わらせることなく、アイススケート体験をきっかけに様々なスポーツに関心を持ち、生涯スポーツにつなぐ機会とすることができた。

## 問い合わせ先

宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

## 事業名

## ICT未来っこ育み事業

## 事業の経過・背景・課題

1人1台端末整備後、市教委研修やICT支援員配置等で教職員のICT機器の操作技術は向上している。  
このため、次のステップとしてICTを効果的に活用して学びを深める授業改善に取り組み、新しい価値を創造できる子どもの育成のために、教員のICT活用指導力向上を図る必要がある。

## 取組内容

交付実績額： 8,547 千円

- ・教職員にICT利活用に関する意識調査を実施し、個人ごとに結果を可視化。  
その結果をもとに、スキルに応じて京都府総合教育センターの学校DX研修受講（悉皆）し、授業や校務で活用した。
- ・意識調査は経年で結果を可視化できるようにし、研修受講に活かしていく。
- ・ICT活用に対する教職員の意識改革を図るため、文科省より講師を招き、ICT活用を含め今日の学校教育に求められる教育実践について講演会を教員全員を対象として実施した。
- ・日常的な教職員への支援として、引き続き、ICT授業アドバイザーが  
月2回各学校を訪問し、授業での効果的な活用の推進と、伴走支援  
による活用の底上げを図った。

## 【活用事例】

- （授業前）教員とICT授業アドバイザーが授業計画を確認し、  
ICTの使いどころを確認  
（授業中）操作支援  
（授業後）授業の振り返りと授業を通じた支援



## 事業の成果・今後の展望等

令和6年度全国学力・学習状況調査における学校質問調査では、授業でのICT活用頻度は上昇し、全校で週3回以上授業で活用しているなど、ICT活用は日常的になってきた。また、児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でのICT活用が令和5年度と比較して上昇し、全国平均を上回るなど、ICT活用の質の向上を図ることができた。

ICTの強みを生かした学習活動は充実している一方で、子どもたちが考えをまとめ・表現する場面でのICT活用には課題があるため、ICTをより効果的に活用するための授業支援に加え、研修や研究の充実も図りながら教科の学びを深める授業改善に取り組み、子どもたちの学びを個別に最適化し、創造性を育む学びへの変革を目指す。

## 問い合わせ先

宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）



学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

## 事業名

## 不登校児童別室対応支援員配置事業

## 事業の経過・背景・課題

宇治市における不登校児童生徒数は、増加傾向にあり、平成24年度を境に9年連続増加し、令和5年度は過去最多となったことや、小学校の別室において、常駐できる教職員が少ないことなどに課題がある。

また、別室に通う児童生徒にとっても、担当者が日々変わることは不安につながり、別室に通いにくい状況を作り出すことが懸念される。

《令和5年度宇治市の不登校状況》

小学校：143人（男子：70人、女子：73人）

## 取組内容

交付実績額： 2,212 千円

・登校はできるものの、教室に入ることが難しい児童に、学びの場の選択肢を広げるため、小学校5校の別室に不登校児童に対応する担当支援員を配置し、校内におけるもう一つの居場所を確保

・継続的に別室を利用することで、物理的・心理的な負担を軽減し、通常学級への復帰につなげる

## 【実施スケジュール】

令和6年4月～：随時支援員を配置

別室開室

毎月：配置校から教育委員会への別室の状況について報告



## 事業の成果・今後の展望等

- ・学校に登校できなかった14名が別室へ登校できるようになり、10校で35名が別室を利用している
- ・2名が所属学級へ入ることができ始め、また、18名が所属学級と別室を併用することで欠席日数が減少した
- ・別室の児童同士が、コミュニケーションをとれるようになり、人間関係が深まることで登校意欲につながった
- ・学校から児童の出席状況や活動内容等について 毎月報告を受けることにより成果を検証し、不登校児童への支援を充実させる。
- ・市教委開催の小・中学校の教育相談担当者を対象とした連絡会等で、事業内容・成果等の報告を通じ、事業周知を行い、各校の取組につなげていきたい。

## 問い合わせ先

宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

## 事業名

## 多様な学びの場創造事業

## 事業の経過・背景・課題

宇治市の特別支援学級の在籍者数、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を要する児童生徒数は増加傾向である。障害特性は多様化しており、様々な教育的ニーズへの対応、多様な場での学びを実現するための支援や対応が学校に求められている。

特別支援学級に在籍している児童生徒へのきめ細やかな支援体制の構築、通常の学級に在籍する支援を必要とする児童生徒の学習面および生活面での支援が課題となっている。

## 取組内容

交付実績額： 5,477 千円

- ・市内の小中学校 3 校をモデル校とし、専門性の高い関係機関（＝府立特別支援学校）・府教委との連携により、特別支援教育の効果的な指導方法の向上、校内支援体制を構築
- ・モデル校に元教員で特別支援教育について専門性の高い インクルーシブサポーターを配置し、まずは特別支援学級に在籍している児童生徒へのきめ細やかな支援や指導、支援体制の構築等についての研究や、インクルーシブ教育の先進校を視察
- ・研究内容の検討や進捗状況等を確認するため、研究協議会やプロジェクト会議、インクルサポーター会議を実施する。

## 【実施スケジュール】

- 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月 : 年間を通じて各校実践
- 令和 6 年 6 月 : 宇治市インクルーシブ教育システム研究協議会開催
- 令和 6 年 1 月～令和 7 年 2 月 : モデル校による公開授業・研究協議
- 令和 7 年 3 月 : プロジェクト会議開催
- 定期的（月 1 回） : インクルサポーター会議

## 事業の成果・今後の展望等

児童生徒の実態把握を多角的な視点から行い、よりよい支援方法や支援の場の検討を行うとともに、インクルーシブ教育は、通常の学級も含めた学校全体で行うものだという教員の意識改革を研修等を通して行い、授業のユニバーサルデザイン化などの授業改善に取り組むことができた。

また、特別支援学級での授業形態を見直し、小集団での一斉授業を充実させることで、互いを知り認め合う関係づくりが進んだ。

今後はさらに市内小中学校の特別支援学級における指導力を高めることに加えて、令和 7 年に設置予定の乳幼児期教育・保育支援センター（仮）との連携強化による就学前からの連続性のある支援を行い子どもの育ちを保障していく。

## 問い合わせ先

宇治市教育委員会学校教育課（0774-21-1879）